



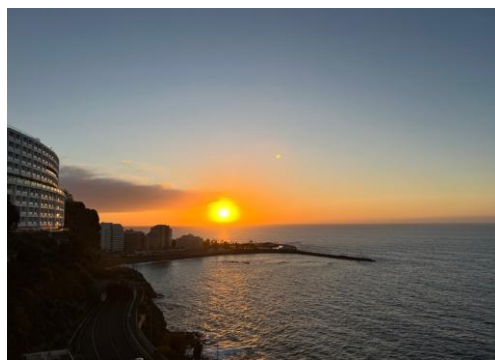
## 関連の内外イベント

スペインで行われた第2回国際半索動物学会の様子を田川特定教授  
(ブルーイノベーション部門臨海実験所 所長)に報告してもらいました。

## カナリア諸島にて第2回国際半索動物学会を共催しました！

新型コロナウイルス感染症の影響を受け第2回国際半索動物学会は第17回国際棘皮動物学会と合同で開催されました。学会は、2024年7月14日の夜に会場のベスト・セミラミスホテルにて、ウェルカムレセプションから始まり、翌日より実際の学会発表が口頭およびポスターで実施されました。参加者は主にヨーロッパおよび南北アメリカ各国から集まり、総勢100名程度の規模でした。筆者は、半索動物に関する発表の座長ならびに講演者として、15日の午後のセッションを担当しました。学会期間中は学生発表の審査委員も務め、時差ボケが回復する暇もなく慌ただしく全日程をこなしました。学会は19日の午後まで開催され、活発な議論や意見交換がなされました。その後、夕日が映えるダウンタウンの別会場Lago Martiánezに移動し、立食パーティが行われました。

パーティではワイン(赤・白)と、タパスとよばれる色とりどりのスペイン料理、ラテン系の音楽が奏でられる中、参加者は時を忘れて楽しみました。最終日の19日は、世界規模の Windows ダウンで、翌20日からの帰国の便が危ぶまれましたが、筆者が搭乗した航空機は無事何事もなかったかの様に、幸運にも予定通りに帰国の途に就くことができました。



筆者



17<sup>th</sup> International Echinoderm Conference & 2<sup>nd</sup> International Hemichordate Meeting  
14 -19 July 2024, Puerto de la Cruz, Tenerife



## 海の珍しい動物から左右相称動物や脊索動物の起源や進化を探る

**田川訓史** 特定教授

ブルーイノベーション部門 臨海実験所

研究分野:比較発生学

研究キーワード:発生と進化、ヒメギボシムシ、ナイカймチョウウズムシ



## 研究概要

## 研究背景

地球上のほとんどの動物門は、体が左右相称な左右相称動物に分類されています。一方、私たち背骨のある脊椎動物は其中で、脊索動物門に分類されます。脊索動物は、ウニなどの棘皮動物門ならびにギボシムシなどの半索動物門と共に、僅か3門で発生学的特徴を共有した新口動物群を形成しています。また、瀬戸内海に広く分布するナイカймチョウウズムシという動物は、左右相称動物の中で最も初期に分岐した動物群と考えられています。

## 研究内容

私たちは、系統学的に重要な位置にあり、また再生能力が非常に高い海の珍しい動物である、半索動物門のヒメギボシムシならびに珍無腸動物門のナイカймチョウウズムシを研究対象としています。ゲノム配列の解読と比較、発生遺伝子の比較、再生に関わる遺伝子の比較等を行い、脊索のない動物からどのようにして脊索がある動物が生まれてきたのか、また脊索動物と同じ分類群に含まれるギボシムシや、祖先的な左右相称動物であるムチョウウズムシでは再生能が非常に高いのに対して、脊索動物になるとなぜ低いのか等、解明していきたいと考えています。最近では、単一細胞レベルでのトランスクリプトーム解析を、これらの動物群に導入すべく試行錯誤している最中です。



ヒメギボシムシ

## 研究相談、共同研究など大歓迎です

〒739-0046 広島県東広島市鏡山1丁目4-4

センターホームページ: <https://s-cnc.hiroshima-u.ac.jp>

E-mail: seto-carbonneutral@hiroshima-u.ac.jp

[編集・発行]

広島大学 瀬戸内CN国際共同研究センター